



最初にお読みください

CentreCOM® MC2600/MC2700 シリーズ リリースノート

この度は、CentreCOM MC2600/MC2700 シリーズ製品をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.2.1

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.2.0 から 1.2.1 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

2.1 (AT-MC230 のみ) MC2700 に装着したラインカードのローカルポートに対してオートネゴシエーション機能を無効に設定し、MC2700 を再起動すると、該当するポートがリンクアップしないことがありましたが、これを修正しました。

2.2 SNMP マネージャーにて、プライベートトラップ受信時にトラップの種類が正しく表示されないことがありましたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 1.2.1 には、以下の制限事項があります。

3.1 SFP 装着直後のポート情報表示について

 「コマンドリファレンス」 / 「インターフェース」

AT-MC251 に SFP を装着し、SFP の認識のログ「Info: SFP installed on port n (n : ポート番号)」が表示される前に、該当するポートに対して SHOW MC PORT コマンドを実行すると、表示される情報に文字化けが発生することがあります。

3.2 SNMP によるログ機能設定の消去について

 「コマンドリファレンス」 / 「ログ」

SNMP マネージャーにて、プライベート MIB の mc2500LogPurge を実行しても、Syslog サーバーの接続 UDP ポート番号はデフォルト値 (514) に戻りません。

Syslog サーバーの接続 UDP ポート番号も含めて本製品のログ機能に関する設定を削除する場合は、コマンドラインインターフェースより PURGE LOG コマンドを実行してください。

3.3 SNMP による状態取得時のタイムアウトについて

SNMP マネージャーにて、SNMPv2 の GetBulk リクエストを実行する際、max-repetitions パラメーターを 5 以上の値に設定すると、本体からの応答がタイムアウトすることがあります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。

4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

取扱説明書とコマンドリファレンスの補足事項です。

4.1 インターフェース



「コマンドリファレンス」 / 「インターフェース」

ENABLE/DISABLE ETH コマンドによりマネージメントポートの有効 / 無効を変更した場合は、トラップは発行されません。

4.2 SNMP



「コマンドリファレンス」 / 「SNMP」

SNMP マネージャーにてラインカード対向機器の情報を取得する場合、その都度、対向機器に対して情報取得のための管理フレームが送信されます。

4.3 接続テスト



「コマンドリファレンス」 / 「接続テスト」

ENABLE LOOPBACK コマンドを入力する際、TAB キーまたはスペースキーによる入力候補の補完機能を使用すると、LP が候補に表示されますが、実際は LP を選択するとエラーが表示されます。

ENABLE LOOPBACK に続いて MODULE、LP の順にパラメーターを指定することで、指定したモジュールの対向機器のループバック機能が正しく有効 (Enabled) に設定されます。

4.4 AT-MC151B の対向機器

AT-MC151B の対向機器として、CentreCOM MC1501A のほかに、AT-1311 をお使いいただくことができます。AT-1311 をお使いいただく場合は、次の点にご注意ください。

- SHOW MC MODULE コマンドのリンクパートナーの機種名 (一覧表示における LP、個別モジュールの詳細情報表示における Link Partner、個別モジュールのリンクパートナー情報表示における Description) は「unknown」と表示されます。
- SHOW MC MODULE コマンドのリンクパートナーのモデル番号 (個別モジュールのリンクパートナー情報表示における TS-1000 Model Number) には、本来は製品名およびハードウェアリビジョンが表示されますが、「AT-1311 Rev.x (x は接続された AT-1311 のファームウェアリビジョン)」が表示されます。
- ENABLE/DISABLE LOOPBACKMODE MODULE コマンドに LP パラメーターを指定することによるループバックモードの切り替えには対応しておりません。
- AT-1311 のエンハンスド・ミッシングリンク機能を使用する場合は、AT-1311 のミッシングリンク機能を無効 (Disabled) に、AT-MC151B のミッシングリンク機能を有効 (Enabled) に設定してください。

5 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM MC2600/MC2700 シリーズ コマンドリファレンス 1.2.0 (Rev.B)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「613-000272 Rev.B」はコマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>